

東京農大福島イノベーション・コースト研究プロジェクト

大学の専門的知見をフル活用した浜通り地方の復興から地域創生へのシームレスな支援モデル構築



8年目の挑戦

実学主義を教育理念としてきた東京農大は、「蓄積してきた知識と技術を震災復興に役立てることこそが我々の使命だ」という思いから「東日本支援プロジェクト」を、相馬市を主なフィールドとして発災後 8 年間にわたり進めてきた。時間の経過とともに変化する課題に対応しながら、東京農大の挑戦は続いている。



福島県相馬市に東京農大が現地入りしたのは2011年5月である。津波の圧倒的な被害に言葉を失った。ここにも豊かな田畑が広がり、人々の暮らしがあった。



東京農大は、福島県や相馬市といった自治体と早くから連携して支援にあたった。行方不明者の捜索も続き、避難所での生活を余儀なくされる住民も多数いるなか、相馬市での農大の挑戦が始まった。



津波によって運ばれた土砂。東京農大は、この津波土砂を除去せず、豊富に含まれるミネラルを利用する「相馬農大方式」による除塩と土壌改良を進めた。



「復興知」で取り組むこと



- 放射性物質汚染などからの環境回復のためのきめ細かい技術支援による安心の創出
- 浜通り地方の自立的発展のための内発的産業振興とそれを担う経営感覚のある人材の育成
- こうした Technology と Management を融合させた農業系総合大学ならではの継続的な支援

- 技術分野 Technology
- ① 森林：間伐による針・広混交林造成の植生回復モデル
 - ② 森林・農地境界：放射性物質の流出動態と対策方法
 - ③ 地域資源：相馬市から発生する肥料資源の利用可能性
 - ④ 農村空間：節足動物を用いた生態系における放射性物質の動態と消長
 - ⑤ 野生動物：人間生活との軋轢と保全に対する基本情報

- 経営分野 Management
- 農産物及び加工品のマーケティング 新商品や体験型観光施設へのツーリズムに対する首都圏消費者のニーズとのマッチング

- 住民との協働
- 農企業経営セミナー 農業経営人材の育成 農業法人の経営高度化による地域農業の高収益化や雇用者の増加

- 学生の参画
- 6次産業化商品開発 大学生による6次産業化のアイデアによる浜通り地方自体の魅力向上



東京農大サマースクール

- 地元高校生と農大の教員・学生によるフィールドワーク
- 「農学」を知り、地元への理解を深める
- 南相馬市小高区を拠点に実施（2019年8月8日）



成果報告会

- 毎年相馬市で実施
- 60名を超える農業者が来場
- 2019年度は1月に実施予定